

ニッポンハムグループが目指すもの

企業理念

1. わが社は、「食べる喜び」を基本のテーマとし、時代を画する文化を創造し、社会に貢献する。
2. わが社は、従業員が真の幸せと生き甲斐を求める場として存在する。

経営理念

1. 高邁な理想をかかげ、その実現への不退転の意志をもって行動する。
2. 人に学び、人を育て、人によって育てられる。
3. 時代の要請に応じて時代をつくる。
4. 品質・サービスを通して、縁を拡げ、縁あるすべての人々に対する責任を果たす。
5. 高度に機能的な有機体をめざす。

グループブランドの約束

おいしさの感動と健康の喜びを
世界の人々と分かち合いたい

私たちは
いのち
生命の恵みを大切に、品質に妥協することなく
「食べる喜び」を心を込めて提供する

そして、時代に先駆け食の新たな可能性を切り拓き
楽しく健やかな暮らしに貢献する

中期経営計画2020

2018年4月1日よりスタートした「中期経営計画2020」は、次の成長ステージに駆け上がるための期間と位置付け、テーマを「未来につなげる仕組み作り」としています。未来を見据えて、環境、社会、経済の各側面から企業価値を高め、持続可能な社会への貢献を目指します。

中でも、経営方針の一つとして、「持続可能性(サステナビリティ)の追求」を掲げています。当該項目においては、「CSRの5つの重要課題」を軸に取り組み、事業が社会課題の解決につながり、健やかな生活を支える存在となるよう進めていきます。

テーマ

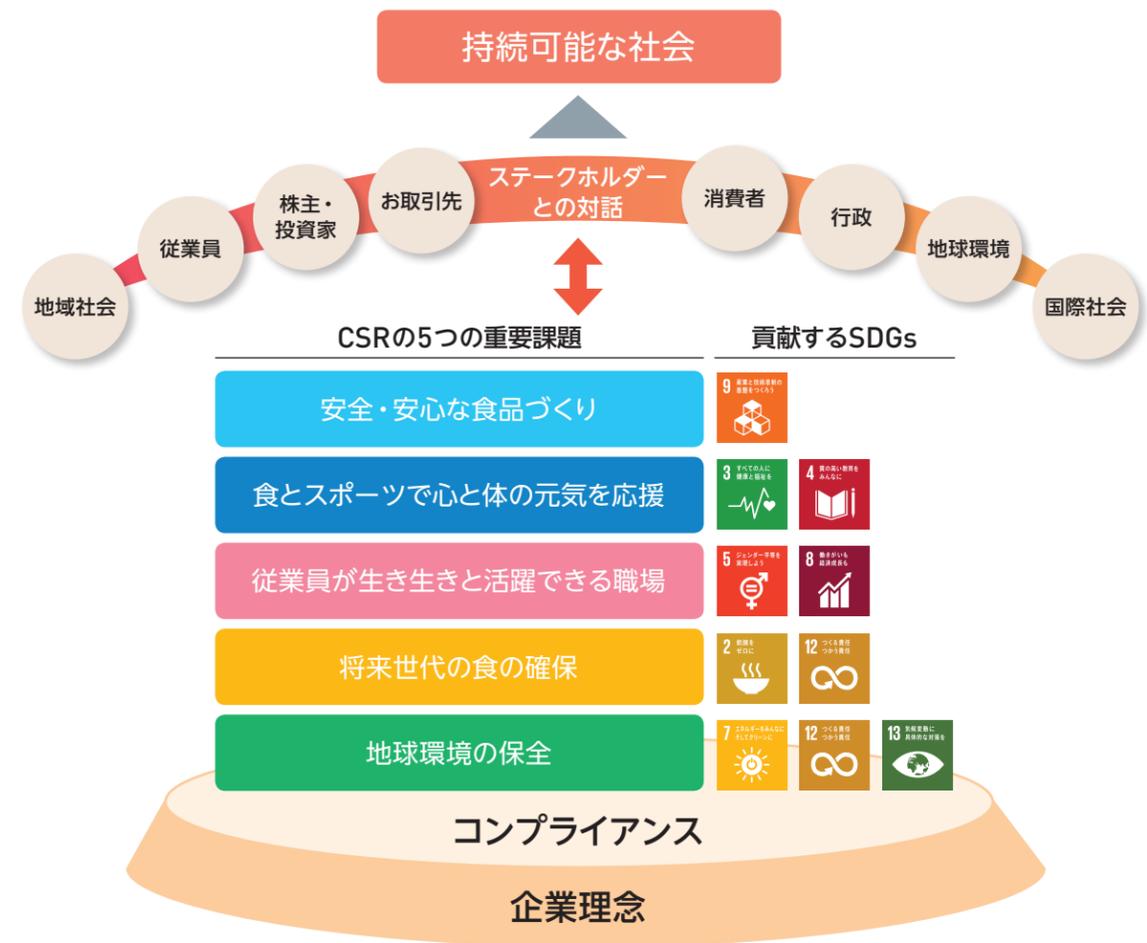
未来につなげる仕組み作り

経営方針

1. 既存事業の効率化による収益力の強化
2. 消費者との対話を通じた価値の創造
3. 食の未来の構想/
実現のための技術力強化・育成
4. 海外市場展開のギア・チェンジ
5. 持続可能性(サステナビリティ)の追求

CSRの5つの重要課題

ニッポンハムグループは、企業理念を経営の根幹とし、ステークホルダーとの対話を大切にしながら、コンプライアンスを基盤に5つの重要課題を中心にCSRを推進しています。当社グループの強みを最大限に活かしつつ、社会とともにこれらの課題に取り組むことが、持続可能な開発目標(SDGs)の実現と持続可能な社会の構築につながると考えています。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

持続可能な開発目標(SDGs)とは

SDGsは、2015年9月に国連で採択された17の目標と169のターゲットからなります。2030年までに達成すべき目標として、地球規模の優先課題や世界のあるべき姿を明らかにしています。地球の限界を超えない範囲に収まり、貧困を終わらせ、誰もが尊厳があり平等に機会が得られるような人生を送ることができるよう、経済、環境、社会分野の3つの側面に対応する目標やターゲットを定め、政府、企業および市民社会に対して、全世界的な行動を要請しています。

“ありがたい姿”の実現に向けた 「未来につなげる仕組み作り」への挑戦

代表取締役社長
畑 佳秀

ニッポンハムグループは、3カ年計画「中期経営計画2020」を策定しました。テーマを「未来につなげる仕組み作り」とし、経営方針の一つとして「持続可能性(サステナビリティ)の追求」を掲げました。その実現のために“持続的な変革”と“あくなき挑戦”を基本姿勢に、さまざまな戦略を推進してまいります。

未来志向と長期視点でサステナビリティを追求

「中期経営計画2020」で「持続可能性(サステナビリティ)の追求」を柱の一つに据えました。中期経営計画2020策定ポイントは、ニッポンハムグループの“ありがたい姿”を思い描き、その“ありがたい姿”からのバックキャストで、当社グループが進むべき方向性を定めたことです。

“ありがたい姿”は、企業理念を実現する姿を表したものであり、短期的思考にとらわれず、長期視点(未来志向)に立ち、大切にしたい従業員の想いを込めて策定しました。

私たちが考える“ありがたい姿”を、「おいしさの“とき”を届けたい」「この想いを分かち合う世界の仲間とともに」「人々の健やかな生活を支える」という言葉に集約しました。それぞれの言葉に込めた想いを共有しながら、実現に向けて始動しています。持続可能性(サステナビリティ)の追求は、幅広い分野にわたるため、特定の部門の取り組みだけではなく、全社としての戦略と事業戦略を連携させ、実行する必要があります。まさに「未来につなげる仕組み作り」が必要と言えます。

「CSRの5つの重要課題」の解決に向けて一歩ずつ

この「未来につなげる仕組み作り」を推し進めるため、「CSRの5つの重要課題」を基本としながら、組織・体制面での強化を図りました。まず、お客様を含む多様なステークホルダーとの対話強化のために、コミュニケーション戦略本部を新設しました。また、新たにCSR推進委員会^{*1}を設置し、CSRに関する方針やテーマの検討、進捗確認などを進めます。

一方の活動面では、「安全・安心な食品づくり」における、食物アレルギーへの対応の強化やCSR調達の推進、また、当社グループならではの「食とスポーツで心と体の元気を応援」する活動を進化させていきたいと思えます。さらにパリ協定^{*2}に代表されるように、「地球環境の保全」は喫緊の課題です。例えば、食品ロスの低減につながる商品の提案や容器包装の軽量化などの継続的な取り組みが欠かせません。そして、世界的な人口増加や気候変動の影響も考慮に入れた「将来世代の食の確保」も重要な課題です。日本国内においては、生産年齢人口の減少を背景に、農家の皆さんとの関係維持とともに生産性向上につながる技術連携を続けています。

いずれも国連サミットで採択された持続可能な開発目標(SDGs)とも関連のある活動であり、「CSRの5つの重要課題」に取り組むことで持続可能な社会の発展に貢献することができると考えています。

多様な考え方を受け入れられる組織へ

最後に何よりも大切なのは、これら一連の取り組みを担う「従業員が生き生きと活躍できる職場」をつくることです。働き方改革として、労働時間の課題や心と体の健康などとともに、ダイバーシティも推進していきます。性別や年齢といった形式的なものだけでなく、多様な考え方を受け入れられる組織づくりこそがダイバーシティであると考えています。

“ありがたい姿”に向け変革を進める中で、誇りの持てる職場・組織となること、そしてその中で、生き甲斐やありがたい自分を描くことができれば、より良い組織風土が築けると考えます。人が組織を動かし、組織が人を動かす――。個人を中心に据え、個人を尊重しながら、個人の力を融合させることで相乗効果を出していける組織づくりを、「中期経営計画2020」と連動させて進めていきます。

*1 CSR推進委員会:2018年4月1日設置。社長を委員長とし、取締役、執行役員を中心に構成。
*2 パリ協定:フランス・パリにおいて開催された国連気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)にて採択された温室効果ガス排出削減などのための国際的な枠組み。

ニッポンハムグループ紹介

ニッポンハムグループの事業は、ハム・ソーセージの製造から始まりました。現在では、国内における食肉、加工食品、水産物、乳製品、健康食品などの事業に加え、海外事業へと領域が広がっています。これからもニッポンハムグループ96社^{※1}、30,655名^{※2}の総合力を結集して、より多くの皆様に「食べる喜び」をお届けしていきます。

食の領域



ハム・ソーセージ



加工食品



食物アレルギー対応食品



食肉



水産物



はっ酵乳・乳酸菌飲料



チーズ



フリーズドライ



冷凍食品



エキス調味料



健康食品



食品検査



コンビニエンスストア向け商品

グループ会社・事業拠点

世界 **20** の国・地域に **576** 拠点を展開^{※1}

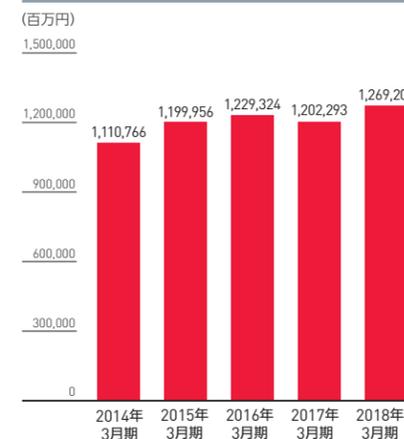
※持分法適用会社含む
※国名は駐在事務所含む



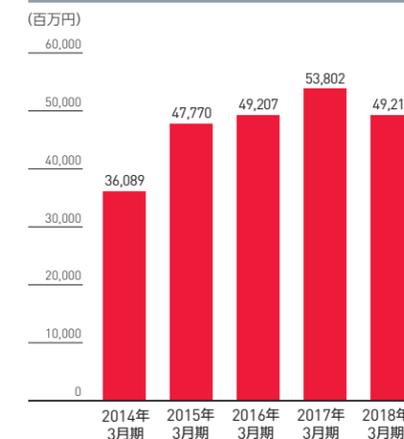
事業拠点数	自社農場	養殖場	製造拠点	物流拠点	営業拠点	研究・検査拠点	合計
国内	122	2	71	24	264	3	486
海外	27		21	2	40		90
小計	149	2	92	26	304	3	576

業績

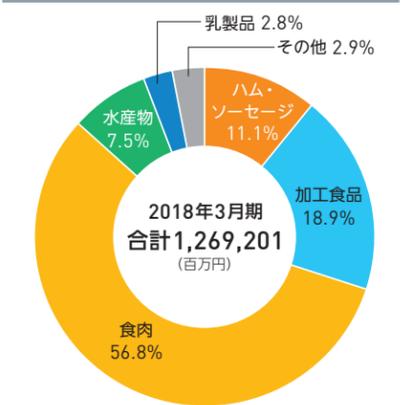
売上高(連結)



営業利益(連結)



売上高構成比



※1 2018年4月1日現在(日本ハム(株)を含む)
※2 2018年3月31日現在(平均臨時雇用者数を含む)